

ありがとう

滋賀県

滋賀八幡西清流館道場

中学1年 柳 瀬 心 太

ぼくがこの春、入部した中学校の剣道部は週に一回、30分程早く登校をする。正面玄関の掃除をするためだ。剣道部の昔からの伝統だ。割り当てられたわけではなく、先輩方が自分たちで始めたと聞いている。学校の先生方は、毎朝その玄関から校舎に入られるので、多くの先生と顔をあわせる。校舎に入られる前に、「おはようございます。」とあいさつをする。笑顔で「ありがとう。」と言ってくださる。それを聞くのが心地よい。そしてこちらも笑顔になって、朝から気持ちよく一日が過ごせる。このような活動をしているのはぼくの中学校では剣道部だけだ。剣道部がずっと続けているのは、この活動が剣道の理念に通じるからだと思う。剣道の理念とは「剣の理法の修練による人間形成の道である」というものだ。人間形成とは人間の心や生き方を作るという事だと思う。人間形成の手段は掃除だけではない。あいさつをすることや感謝をすることもそう。自分に出来る事は何なのか？それは人のため、世の中のためになることなのか？考えて行動に移すことなのだと思う。

思えば、自分が周りの人たちに支えてもらっていると感じることもたくさんある。

例えば、小学校の登下校の時、いつも大きな交差点にスクールガードの人が立っていてくれた。歩くのがつらいと感じるような厳しい天気の日も毎日立っていてくれた。最後の子が下校するまで見守り、必ず笑顔で「おかえり」と言ってくれた。その笑顔を見ると、学校から疲れて帰って来てもホッとすることができた。今でも登下校でその道を使うので、会った時、「おはよう」「おかえりなさい」とあいさつをしてくれる。

ゴミ拾いのボランティアの人もそう。頼まれているわけでも報酬があるわけでもないのに、道路のゴミ拾いをやってくれている。そのおかげで、ペットボトルやおかしのゴミなどがポイ捨てされていた道を気持ちよく通ることができる。

学校の玄関の掃除をすると「ありがとう」と言ってもらえる事がぼくはとても気持ちよくて、嬉しくなる。しかし一方で、自分のために何かをしてくれている人がいる。その人にぼくは、「ありがとう」と伝えられているだろうか？また剣道部では奉仕活動が出来ていても、普段、自分一人の時に人のためになる事を考えて出来ているだろうか？

ありがとうは漢字で書くと有るに難しいと書く。有ることが難しい。当たり前ではないと

いう意味だ。自分は毎日のように見る様々な人の有難い行動を、いつも見る景色を見るかの
ように過ごしていないだろうか。今度誰かがみんなのために何かをしてくれているのを見
かけたら、心から「いつも有難う」と言えるようになろうと思う。それから稽古などでも色々
な人に有難うと言うことを心がけようと思う。

「ありがとう」という言葉は温かさを感じる。ぼくが思う、「ありがとう」を伝える事の
大切な理由は言われた人が前向きになれるからだと思う。「もう嫌だ」「やめたい」「辛い」
と思っている時、他の人から「ありがとう」と言われたら、もう少し頑張ってみようと思え
る。ありがとうは感謝でもあり、エールの言葉でもあると思う。

ゴミ拾いなどの特別なありがたさもあるが、日常的なありがたさにも感謝する事を忘れ
てはいけないと思う。「当たり前で感謝する」という言葉を聞いたことがある。毎日ご飯を
作ってもらえる事、仲間と剣道が出来る事、元気に学校へ行ける事、温かい布団で寝られる
事など、普段気にも留めないような事にも感謝するという事だ。

今、自分がいる環境や家族、友達、仲間への感謝。みんなのために何かをしてくれている
人への感謝。たくさんの人に感謝をしながら、ぼくはこれからも剣道を通じて剣道の理念で
もある人間形成に磨きをかけていきたい。